

コード No. 10011

**Anti-Human  
Osteopontin (10A16) Mouse IgG MoAb**

容量 : 200 µg

はじめに : OPN の構造は、Glu, Gln, Asp, Asn が、総アミノ酸の半数以上を占めるという特徴的なタンパク質で、中央部には、トロンビン開裂部位が存在します。そのすぐ N 末端側には、細胞接着配列である GRGDS 配列を有し、インテグリン  $\alpha\beta 3$  (ビトロネクチン受容体) と結合を示すことが知られています。OPN は、破骨細胞の  $\alpha\beta 3$  と結合することにより、骨吸収調節を行っている可能性があり、骨研究において注目されています。また、CD44 と結合するという報告もあり、がん転移における OPN の関与が示唆されています。また、トロンビンにより切断された OPN の N 末側の断片 (OPN N-Half) は、 $\alpha 4$  や  $\alpha 9$  インテグリンと接着するとの報告があり、多くの炎症性疾患などとの関連も示唆されています。

免疫抗原 : Human Osteopontin の部分合成ペプチド (トロンビン開裂部より下流部分)

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ  
(X63 - Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : 10A16 サブクラス : IgG<sub>1</sub>

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 200 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 約 0.5 µg/mL にて使用可能  
ホルマリン固定、パラフィン包埋切片の場合マイクロウェーブ前処理を推奨 (10mM クエン酸緩衝液, pH6.0、10 分間)  
: ウェスタン・ブロッティング 0.5~1 µg/mL にて使用可能特異性 : トロンビンで切断されたヒトの Osteopontin も検出します  
マウス、ラットの Osteopontin とは非交差です

文献 : 1. Kon S, Maeda M, Segawa T, Hagiwara Y, Horikoshi Y, Chikuma S, Tanaka K, Rashid MM, Inobe M, Chambers AF, Uede T. Antibodies to different peptides in osteopontin reveal complexities in the various secreted forms. J Cell Biochem. 2000 Apr;77(3):487-98.